枚　方　市

「自分たちの町は自分たちで守ろう」
自主防災組織100％達成！

経過

本市では、平成９年から地震等の大規模広域災害に備えて「自分達の町、地域、家庭は自分達の手で守る」ための自主防災会の結成を市内の小学校区（45校区）単位で進め、この度、組織率100％を達成しました。

自主防災組織100％達成記念の「枚方市防災シンポジウム」

地震等の大規模災害が発生した場合、市民の皆さんが被災するのと同時に、市役所をはじめとする公的機関も大きな被害を受け、特に災害発生直後の行政の対応能力が著しく低下することが考えられます。阪神淡路大震災や新潟県中越地震、そして先の能登半島地震の経験から、地域力の高いところやコミュニティ活動が盛んな地域は被害が少なく、避難所運営や災害復旧活動が円滑に進んだことが実証されました。

このことから、減災のためには、常日頃から自主防災組織が地域の中核となり、継続的に活動を続けることが重要であることが認識されました。

そして、自主防災会が市内全域で組織化されたことを記念して「防災シンポジウム」を市民会館大ホールで開催しました。（参加700人）

（シンポジウムの主な内容）

１．基調講演　河田惠昭氏（京都大学防災研究所長）

２．パネルデスカッション

河田惠昭氏、樫原健一氏（日本建築構造技術者協会関西支部技術委員長）、小河保之氏（大阪府危機管理監）、木下　誠（枚方市副市長）、コーデネイター大橋広路氏（防災パーソナリティ）

３．拡げよう防災の輪（和）太鼓「釈迦」演舞

４．防災イベント（市民会館前広場）

- ◆　大阪府キャラバン事業によるＰＲ広報
- ◆　学校給食課のカレーライス1,200食無料試食
- ◆　近畿災害救助支援協会の防災グッズ展示
- ◆　ＮＴＴ「171」無料体験と防災関係機関の展示

自主防災会の主な取り組みと活動

１．枚方市自主防災組織ネットワーク会議

各校区自主防災会の相互の情報交換や先進的な取り組み活動事例などを紹介しながら、活動のレベルアップを図っています。

２．各校区の自主防災会活動事例紹介

本市では小学校区ごとに、自主防災会を結成していますが、各々の校区の特色を生かした防災活動として、避難誘導・初期消火・炊き出し・応急救護（ＡＥＤ含む）・地震体験・煙中避難体験などの訓練の他、防災講演、研修会など、昨年度実績で117回にも及ぶ活動を行っています。

「地震から子供たちを守ろう！」と自主防災会で

ネットワーク会議で真剣に議論しています

自主防災会の避難誘導訓練

体育館のガラスに飛散防止フィルムを貼りました。

地震の揺れにより、ガラスが飛散落下することが予想されますが、ガラス飛散を未然に防いで、子供たちの安全を守るために、地元建設業者の支援を受け、空き缶回収などの費用を利用して、保護者を中心とする防災会の役員が手弁当で小学校体育館にフィルムを貼る活動を行いました。

体育館に飛散防止フィルム

各自主防災会では非常食のアルファ化米を使用しての炊出し訓練の他、ガス・電気などのライフラインが寸断されたことを想定して、釜戸（薪）を利用して豚汁の炊出し訓練を行なって好評を得ています。

また、防災訓練を継続的に実施するためには、多くの住民が楽しみながら活動できることが大切なため、簡易担架の作り方競争や大声コンテストなど、市民が参加しやすい防災イベントを企画しています。

豚汁の炊き出し訓練

防災フェステバルで簡易担架組み立て競争

これからの課題と展望

少子高齢化社会に入り、災害時要援護者といわれる身体の不自由な人や高齢者を災害時にどのようにして助けるかが、今後の自主防災活動の大きな課題となっています。

一方、防災訓練を毎年継続的に開催する必要性があるものの、内容のマンネリ化と参加者の高齢化が目立ち、災害時に活動が期待される若年層の参加が少ないだけでなく、訓練参加人数も減少の傾向にあることは否めません。

今後は継続的に自主防災会活動を展開し、若年層の人たちにも防災に関心を持ち、地域活動に参加してもらうためにはどのような方法があるかを検討していく必要があります。また参加者が楽しみながら防災活動を行い、防災意識を啓発するためには、活動内容を工夫しながら地域で開催される夏祭り、餅つき大会、そして区民運動会などのイベントの中で、防災の各種訓練を取り入れることも必要です。

そして、全ての住民が「互いに助け合い、支え合い、協力し合える」地域づくりを進めるため、これからも、全校区で発足した自主防災組織を積極的に支援していきたいと考えています。